

望洋荘便り

第 86 号
平成 23 年
1 月 発行

謹んで新春の

およろこびを申し上げます

平成二十三年

元旦

笑顔とコミュニケーション



社会福祉法人りんさく福祉会

理事長 須田 晃

明けまして新年おめでとうございます。

突然ですが、ニッコリした赤ちゃんの笑顔は素敵ですね。わが子や孫に限らず、誰も顔がほころんでしまいます。あまた存在する動物のなかで、顔に表情筋とよばれる多くの筋肉がそなわっているのは人間だけでしよう。人間は社会性動物で、互いに助け合って生きていくために多種多様な表情を演出してのコミュニケーションは欠くことの出来ないものです。

私たちにとつて、直接的なコミュニケーションの手段は主に言葉とジェスチャーと表情の二つであると言つていいでしょう。直接的なコミュニケーションの手段の第一は、先ずは表情での表現でしょう。言葉やジェスチャーに先立つて相手側に微妙な気分や感情を直感的に伝達し、対人関係の基調を決定する力を持っています。その為に、表情筋が高度に発達した理由でしょうか。

微笑(ほほえみ)は、あまたある表情のなかでも格別の位置を占めています。人が声を出して笑うのは生まれて四ヶ月たつてからだといひます。しかし微笑のほうは新生児微笑と言つて、生まれてすぐに出来るから、運がよければ生まれた

その日にも観察出来るはずで。是非、お子さんや孫の誕生の際には、つぶらな黒い瞳に目を注いで見てください。

なぜほほえむのか？ 赤ちゃんのかわいい微笑には必死の願いが込められています。すべての動物の中では、首さえすわつていない人間の赤ちゃんは飛びぬけて無力な存在です。周囲の人間の援助が得られなければ生きてゆけません。継続的な援助を得るには、好意を獲得すること、かわいさという、微笑を保つことが大事なのです。ほほえみの価値は、長じてもさして減じる事はありません。無表情な人、しかめつ面をした人よりも、ニコニコ笑顔の人のほうが明らかに好感を持たれるのが高いのは勿論のことです。だからニコニコ笑顔の人は、皆に気に入られて人生を有利に展開していきけるのです。

望洋荘に住む高齢者の方々も必死になつて笑顔をみせて、皆さんにほほえんでいます。なかには、表情になかなか「ほほえみ」を出せないでいる方もいらつしやいます。でも、その方の表情にひそんでいる「ほほえみ」をも読み取つて職員の明るい笑顔で答えて上げて下さい。どうぞ宜しくお願いいたします。

望洋荘入居者動向表

| 現在まで入居者数 | 総数 | 退所者 (死亡) | (入院・移転) | 入居中 | |
|----------|-----|----------|---------|------|----|
| 入居者数 | 194 | 117 | (81) | (36) | 77 |

| 性別 | 男性 | 女性 | 合計 |
|------|----|-----|-----|
| 入居者数 | 45 | 149 | 194 |

| 入所前の生活形態 | 家庭 | 介護施設 | 医療機関 | 合計 |
|----------|----|------|------|-----|
| 入居者数 | 73 | 34 | 87 | 194 |

| 入所時年齢 | 70歳未満 | 70~75 | 76~79 | 80~85 | 86~89 | 90~95 | 96~99 | 100歳以上 | 合計 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-----|
| 入居者数 | 3 | 13 | 25 | 65 | 41 | 41 | 6 | 0 | 194 |

(最高齢者98歳・最年少者63歳 平均84.0歳)

| 現在入所者の年齢 | 70歳未満 | 70~75 | 76~79 | 80~85 | 86~89 | 90~95 | 96~99 | 100歳以上 | 合計 |
|----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|----|
| 入居者数 | 1 | 1 | 6 | 21 | 18 | 21 | 8 | 1 | 77 |

(最高齢者106歳・最年少者70歳 平均88.2歳)

望洋荘開設八年目を迎え、これまでの入居者の方々の動向を上表にまとめました。
平成 22 年 12 月 31 日現在

「新年初顔合わせ」 元旦



平成 23 年 1 月 1 日元旦午前 10 時～「新年初顔合わせ」を塩屋岬ホールにて開催致しました。望洋荘を代表して濱尾事務長より、入居者様に新年のごあいさつをさせていただきました。その後、全員で新年を祝い乾杯しました。お神酒が入ったおかげでみんなとても良い笑顔で、会話されている姿がみられました。最後は「正月の歌」をみんなで歌い今年も良い年でありますよう願いました。

「初日の出」平成二十三年 元旦

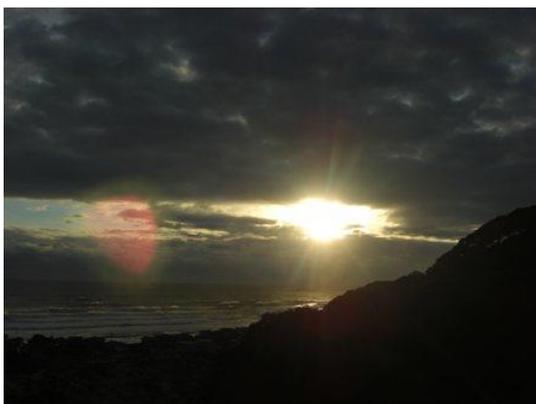
平成二十三年元旦初日の出の様子です。今年はいにくの空模様でありましたが、午前七時二十二分頃より、雲の谷間から少しずつ御来光が差し始め、約十分後にお姿のお出ましでした。



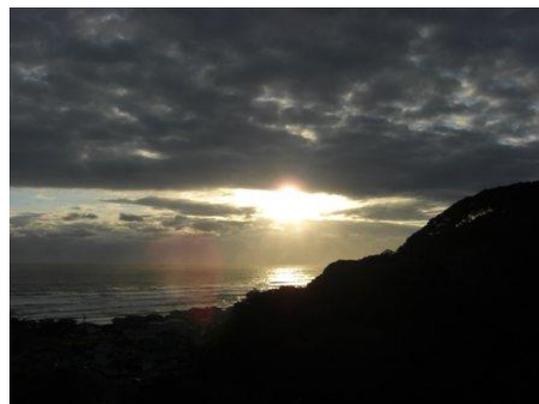
07:30 光が眩しくなって間もなくです。



07:22 雲の切れ間少し明るくなりました。



07:33 今年も良い年であります様に。



07:28 御来光が海面に映りだしました。

「千支」について

あけましておめでとうございます。今回は、新年にあたり、千支について話をしてみたいと思います。千支と言えば一般的に、子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥の十二支が使われています。本来「千支」という言葉は、「十千十二支」（じっかんじゅうにし）の千と支をとった訳語だそうです。「十千十二支」とは、甲（きのえ）・乙（きのと）・丙（ひのえ）・丁（ひのと）・戊（つちのえ）・己（つちのと）・庚（かのえ）・辛（かのと）・壬（みずのえ）・癸（みずのと）の十千と先に述べた十二支を組み合わせた六十を周期とする数詞であり、暦の他にも、時間や方向などでも使われています。

たそうです。十千は今では余り馴染みがありませんが、戦前の頃までは、学校の成績票などにも使われていました。いまの一から五までの五段階評価が、当時は、甲（こう）・乙（おつ）・丙（へい）・丁（てい）・戊（ぼ）の五段階評価で数字とは逆に甲が一番成績が良く、乙から戊まで段々と評価が下がる仕組みになっていました。

私自身も自分の千支すらわからないほどです。しいて言えば、私の同級生の早生まれや一つ下の人達が、丙午（ひのえうま）であり、他の学年より人数が少なかったと言う事ぐらいです。下図の表を見て、丙午の前だから、

乙巳（きのとみ）なんだとはじめてわかりました。それから千支について色々見ていくと、千支から名前が由来したと思えるものが多いつかあります。例えば、明治元年の政府軍と幕府軍が激しく戦った戊辰戦争や大正十三年に出来た高校球児の憧れの甲子園球場など等々が挙げられます。

ちなみに還暦とは、六十一歳を迎える年に、生まれ年の千支に戻るもので、「暦が還った」という意味で「還暦」と言い、その正月には、公私ともに正式に隠居して長寿の祝いをしました。この時に家族などが赤い頭巾やちゃんちゃんこを贈りますが、これは、もう一度赤ちゃんに戻って「生まれ直す」という意味合いです。現在は、満六十歳の誕生日や六十周年に還暦の祝いをする人が多いようです。また中国では「花甲」、韓国では「還甲」と言い、日本と同じように長寿を祝い、無病息災を願うのが習慣となっています。なお、二回目の還暦を迎え百二十一歳を迎える方の場合は大還暦といえます。

また千支は日本だけではなく、起源が中国でそこから朝鮮半島（韓国・北朝鮮）・ベトナム・モンゴルなどのアジア諸国のほかにロシア・東欧にまで広がっているそうです。ただし、十二支については若干それぞれの国によって「猪」が「豚」だったり、「兔」が「猫」だったり、などの違いはあるようです。

「千支」について

「十千十二支」

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 年号 | 元治01年 | 慶応01年 | 慶応02年 | 慶応03年 | 明治01年 | 明治02年 | 明治03年 | 明治04年 | 明治05年 | 明治06年 | 明治07年 | 明治08年 | 明治09年 | 明治10年 | 明治11年 |
| 西暦 | 1864 | 1865 | 1866 | 1867 | 1868 | 1869 | 1870 | 1871 | 1872 | 1873 | 1874 | 1875 | 1876 | 1877 | 1878 |
| 千支 | 甲子 | 乙丑 | 丙寅 | 丁卯 | 戊辰 | 己巳 | 庚午 | 辛未 | 壬申 | 癸酉 | 甲戌 | 乙亥 | 丙子 | 丁丑 | 戊寅 |
| 年号 | 明治12年 | 明治13年 | 明治14年 | 明治15年 | 明治16年 | 明治17年 | 明治18年 | 明治19年 | 明治20年 | 明治21年 | 明治22年 | 明治23年 | 明治24年 | 明治25年 | 明治26年 |
| 西暦 | 1879 | 1880 | 1881 | 1882 | 1883 | 1884 | 1885 | 1886 | 1887 | 1888 | 1889 | 1890 | 1891 | 1892 | 1893 |
| 千支 | 己卯 | 庚辰 | 辛巳 | 壬午 | 癸未 | 甲申 | 乙酉 | 丙戌 | 丁亥 | 戊子 | 己丑 | 庚寅 | 辛卯 | 壬辰 | 癸巳 |
| 年号 | 明治27年 | 明治28年 | 明治29年 | 明治30年 | 明治31年 | 明治32年 | 明治33年 | 明治34年 | 明治35年 | 明治36年 | 明治37年 | 明治38年 | 明治39年 | 明治40年 | 明治41年 |
| 西暦 | 1894 | 1894 | 1895 | 1896 | 1897 | 1898 | 1899 | 1900 | 1901 | 1902 | 1903 | 1904 | 1905 | 1906 | 1907 |
| 千支 | 甲午 | 乙未 | 丙申 | 丁酉 | 戊戌 | 己亥 | 庚子 | 辛丑 | 壬寅 | 癸卯 | 甲辰 | 乙巳 | 丙午 | 丁未 | 戊申 |
| 年号 | 明治42年 | 明治43年 | 明治44年 | 明治45年 | 大正02年 | 大正03年 | 大正04年 | 大正05年 | 大正06年 | 大正07年 | 大正08年 | 大正09年 | 大正10年 | 大正11年 | 大正12年 |
| 西暦 | 1909 | 1910 | 1911 | 1912 | 1913 | 1914 | 1915 | 1916 | 1917 | 1918 | 1919 | 1920 | 1921 | 1922 | 1923 |
| 千支 | 己酉 | 庚戌 | 辛亥 | 壬子 | 癸丑 | 甲寅 | 乙卯 | 丙辰 | 丁巳 | 戊午 | 己未 | 庚申 | 辛酉 | 壬戌 | 癸亥 |
| 年号 | 大正13年 | 大正14年 | 大正15年 | 昭和02年 | 昭和03年 | 昭和04年 | 昭和05年 | 昭和06年 | 昭和07年 | 昭和08年 | 昭和09年 | 昭和10年 | 昭和11年 | 昭和12年 | 昭和13年 |
| 西暦 | 1924 | 1925 | 1926 | 1927 | 1928 | 1929 | 1930 | 1931 | 1932 | 1933 | 1934 | 1935 | 1936 | 1937 | 1938 |
| 千支 | 甲子 | 乙丑 | 丙寅 | 丁卯 | 戊辰 | 己巳 | 庚午 | 辛未 | 壬申 | 癸酉 | 甲戌 | 乙亥 | 丙子 | 丁丑 | 戊寅 |
| 年号 | 昭和14年 | 昭和15年 | 昭和16年 | 昭和17年 | 昭和18年 | 昭和19年 | 昭和20年 | 昭和21年 | 昭和22年 | 昭和23年 | 昭和24年 | 昭和25年 | 昭和26年 | 昭和27年 | 昭和28年 |
| 西暦 | 1939 | 1940 | 1941 | 1942 | 1943 | 1944 | 1945 | 1946 | 1947 | 1948 | 1949 | 1950 | 1951 | 1952 | 1953 |
| 千支 | 己卯 | 庚辰 | 辛巳 | 壬午 | 癸未 | 甲申 | 乙酉 | 丙戌 | 丁亥 | 戊子 | 己丑 | 庚寅 | 辛卯 | 壬辰 | 癸巳 |
| 年号 | 昭和29年 | 昭和30年 | 昭和31年 | 昭和32年 | 昭和33年 | 昭和34年 | 昭和35年 | 昭和36年 | 昭和37年 | 昭和38年 | 昭和39年 | 昭和40年 | 昭和41年 | 昭和42年 | 昭和43年 |
| 西暦 | 1954 | 1955 | 1956 | 1957 | 1958 | 1959 | 1960 | 1961 | 1962 | 1963 | 1964 | 1965 | 1966 | 1967 | 1968 |
| 千支 | 甲午 | 乙未 | 丙申 | 丁酉 | 戊戌 | 己亥 | 庚子 | 辛丑 | 壬寅 | 癸卯 | 甲辰 | 乙巳 | 丙午 | 丁未 | 戊申 |
| 年号 | 昭和44年 | 昭和45年 | 昭和46年 | 昭和47年 | 昭和48年 | 昭和49年 | 昭和50年 | 昭和51年 | 昭和52年 | 昭和53年 | 昭和54年 | 昭和55年 | 昭和56年 | 昭和57年 | 昭和58年 |
| 西暦 | 1969 | 1970 | 1971 | 1972 | 1973 | 1974 | 1975 | 1976 | 1977 | 1978 | 1979 | 1980 | 1981 | 1982 | 1983 |
| 千支 | 己酉 | 庚戌 | 辛亥 | 壬子 | 癸丑 | 甲寅 | 乙卯 | 丙辰 | 丁巳 | 戊午 | 己未 | 庚申 | 辛酉 | 壬戌 | 癸亥 |
| 年号 | 昭和59年 | 昭和60年 | 昭和61年 | 昭和62年 | 昭和63年 | 昭和64年 | 平成02年 | 平成03年 | 平成04年 | 平成05年 | 平成06年 | 平成07年 | 平成08年 | 平成09年 | 平成10年 |
| 西暦 | 1984 | 1985 | 1986 | 1987 | 1988 | 1989 | 1990 | 1991 | 1992 | 1993 | 1994 | 1995 | 1996 | 1997 | 1998 |
| 千支 | 甲子 | 乙丑 | 丙寅 | 丁卯 | 戊辰 | 己巳 | 庚午 | 辛未 | 壬申 | 癸酉 | 甲戌 | 乙亥 | 丙子 | 丁丑 | 戊寅 |
| 年号 | 平成11年 | 平成12年 | 平成13年 | 平成14年 | 平成15年 | 平成16年 | 平成17年 | 平成18年 | 平成19年 | 平成20年 | 平成21年 | 平成22年 | 平成23年 | 平成24年 | 平成25年 |
| 西暦 | 1999 | 2000 | 2001 | 2002 | 2003 | 2004 | 2005 | 2006 | 2007 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| 千支 | 己卯 | 庚辰 | 辛巳 | 壬午 | 癸未 | 甲申 | 乙酉 | 丙戌 | 丁亥 | 戊子 | 己丑 | 庚寅 | 辛卯 | 壬辰 | 癸巳 |

木の兄… 甲(きのえ) 火の兄… 丙(ひのえ) 土の兄… 戊(つちのえ) 金の兄… 庚(かのえ) 水の兄… 壬(みずのえ)
 木の弟… 乙(きのと) 火の弟… 丁(ひのと) 土の弟… 己(つちのと) 金の弟… 辛(かのと) 水の弟… 癸(みずのと)

新年を迎えて
『今年の抱負』

今年の目標
—江戸しぐさに学びましょう—



介護老人福祉施設 望洋荘
施設長 須田 美保子

新年 あけまして おめでと〜ございます

江戸商人の育成を語る言葉として、次のような言葉があります。「三つ心、六つ躰、九つ言葉、十二文、十五理（ことわり）で末決まる」というものです。三歳までは心の教育。六歳までに箸の使い方から始まって「傘かしげ」や「肩ひき」などの江戸しぐさを日常的な躰として繰り返し行いました。

九歳までにお客様との会話を覚え、十二歳では請求書や苦情処理書までかけるようになっていました。そして十五歳では物の道理を理解するよう努め、商人として一人前になっていったのです。

私たちの職場でも、職員が「お客様に満足してもらえるように成長を図る」という点は同じです。その時期その場面での経験を経て、一つひとつの事柄を学んでいく積み重ねが、一人前と呼べる職場人に成長させるのでしょう。そのためには、当人が『一人前の仕事をするのだ』という確かな思いが必要です。周囲から認められるよう、自分を磨く意志があつて初めて向上が望めます。自己のレベル向上に王道はありません。苦勞と努力を重ねて道を歩んでいきましょう。

最後に一言、見て解ることは言わない。訪ねてきた人が汗を流していたら「汗をかいていますね」とは言わず、すぐ、すつと冷たい水やおしぼりを差し出したいですね。どうか望洋荘においても、相手の健康状態を一目で見抜いて迅速に対応できる職員になっていただけることを切に願っております。

—皆で一歩ずつ成長していきましょう—



二月の行事予定

- 二月三日（木）午前十時〜
二豆まき
- 二月六日（日）午後十二時〜
二家族交流会）薄磯・豊間合同
- 二月十七日（日）午後十二時十五分〜
二家族交流会）勿来ユニット

【二月のお誕生会予定】

- 二月一日（火）勿来 高橋 義一様（七九歳）誕生会
- 二月十日（木）四倉 中村 照子様（八九歳）誕生会
- 二月十五日（火）永崎 熊田ミヤ子様（八六歳）誕生会
- 二月十五日（火）勿来 伊藤 ムメ様（八六歳）誕生会
- 二月二日（月）四倉 和田美智子様（七三歳）誕生会
- 二月五日（金）豊間 鈴木トクヨ様（九五歳）誕生会
- 二月五日（金）永崎 小峯 幸重様（九〇歳）誕生会
- 二月五日（金）四倉 渡邊 キミ様（九〇歳）誕生会
- 二月六日（土）豊間 鎌田ミツ子様（九四歳）誕生会
- 二月七日（日）永崎 佐藤 由松様（九二歳）誕生会
- 二月八日（月）四倉 賀澤 英子様（八八歳）誕生会

編集後記

『望洋荘』便り

平成二十三年一月三十一日発行

発行所 いわき市

平豊間字合磯三十九番地

社会福祉法人 りんさく福祉会

介護老人福祉施設 望洋荘

電話 (0246) 55-7373

FAX (0246) 55-7255